



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 横地常広
編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1 新年のご挨拶

P2 日臨技支部医学検査学会開催報告（4）【近畿支部】

P3～P4 全国「検査と健康展」2025 各地からの報告 第2回

謹んで新年のお慶びを申し上げます

平素より、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技と略す）の活動に対し、ご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

我が国では、少子高齢化及び人口減少が進んでおり、医療を取り巻く情勢は一層の厳しさを増しております。2040年の医療環境を見据え今後も増加すると推測される後期高齢者のうち、特に問題視されているのが85歳以上の「医療・介護の複合ニーズ」を抱える高齢者への対応です。

このような情勢に対応すべく、厚生労働省は、昨年12月に令和7年度補正予算案及び令和8年度予算案を公表しました。医療介護の領域では「医療・介護等支援パッケージ」として、医療機関・薬局における賃上げ・物価上昇に対する支援、施設整備の促進に対する支援、福祉医療機構による優遇融資等の実施、生産性向上に対する支援、病床数の適正化に対する支援、介護分野の職員の賃上げ、介護事業所・施設のサービス継続に対する支援などの施策が盛り込まれました。

これらの施策により、病院経営の改善が期待されるなか、我々臨床検査技師を取り巻く環境も大きく変わり、医療機関における検査室のあり方や臨床検査技師の新たな働き方が求められています。皆様方には、我々の根幹である「検査データの品質保証」を担保した上で、今後進展すると思われる自動化、ロボット技術の導入、ICTを活用したシステム化、生成AIを活用したデータ解析などの新技術を積極的に活用し、検査室の生産性向上に努め、業務の効率化から生まれる余力を最大限生かして、診療支援などに取り組むことにより、「新たな場所」に「新たなニーズ」を生み出し臨床検査技師の「新たな価値観の創出」に取り組んでいただきたいと思います。

日臨技では、このような社会情勢、医療情勢のなかで、10年後、20年後も臨床検査技師として働き続けることのできる環境を整えるために、信頼される臨床検査技師の育成、身分法などの整備や職域拡大、待遇改善に向けた活動を引き続き展開して参ります。

本年も変わらず温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、日臨技会員の皆様方にとって、実り多き年でありますよう祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



令和8年元旦
代表理事長 横地 常広

日臨技支部医学検査学会開催報告(4)

2025年度 近畿支部医学検査学会

Next Challenge ~変動する時代への適応と深化~

学長 江口 光徳



学長のご挨拶



中高生進路支援ガイダンス

このたび、令和7年度 日臨技近畿支部医学検査学会（第64回）を、11月22日（土）～23日（日）の二日間、京都市左京区の国立京都国際会館にて開催いたしました。本学会は「Next Challenge ~変動する時代への適応と深化~」をテーマに掲げ開催いたしました。また、今回も第66回日本臨床検査医学会近畿支部総会および第44回日本衛生検査所協会近畿支部学術研究発表会との同時開催という形で行いました。

特別講演では「京大病院にAIを入れてみた」（黒田知宏先生／京都大学医学部附属病院）という演題で医療情報システムへのAI導入の現状と可能性、課題についてのお話をいただき、「iPS細胞を用いた輸血製剤製造開発の現状」（江藤浩之先生／京都大学iPS細胞研究所）という演題では血小板成分の役割の新たな知見と、iPS細胞からの血小板生成研究の最前線を紹介いただきました。どちらも最先端のお話で大変興味深い内容でした。文化講演では「家康と二条城」（梅林秀行氏／京都高低差崖会）のお話をいただき

京都の歴史の一端を感じることができました。また、基調講演として「今が旬・・臨床検査次のステージへ」という演題で日本臨床衛生検査技師会の横地常広代表理事長より講演をいただき、現在の医療情勢や今後の臨床検査技師の可能性など多岐にわたるお話をいただきました。その他にも、多数の一般演題、教育講演、シンポジウム、若手技師・学生向け企画、さらには共催企業によるランチョンセミナーなど、幅広いプログラムを開催できました。今回も、三団体合同開催のメリットを活かし三団体合同セッションとし

てRCPCも開催しました。また、人口の減少に伴い献血者の減少が危惧されている中、会場では献血も行いました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

学会期間の両日とも天気が良く、多数の参加者に来場いただき各会場では立ち見が出る会場も多くあり、活発な意見交換も行われ大変充実した学会になったと感じられました。学会場から外を見ると、宝ヶ池の先に山々の紅葉が美しい景色を見ることができ、学会で勉強しながら京都の紅葉も楽しめたのではないでしょうか。

最後になりますが、本学会の開催にあたり、ご尽力いただいた実行委員長、副実行委員長、事務局長はじめ実行委員の皆様、研究班等の実務委員の皆様、協賛企業様、事務局を引き受けてくださった日本旅行様、そしてご参加いただいた会員すべての皆様に心より御礼申し上げます。また、近畿支部各府県の会長様はじめ各府県の役員の皆様にも、準備期間から学会当日に至るまで様々なご協力いただき大変感謝いたします。変動する医療環境の中、「Next Challenge」を合言葉に、今後も共に前進してまいりましょう。

全国「検査と健康展」2025 各地からの報告 第2回

北海道

北海道の「検査と健康展」を、令和7年9月23日の秋分の日に、チカホ[札幌駅前通地下広場]にて、健康チェックなどの検査体験を通して臨床検査技師の認知度向上を目的に開催しました。肺年齢、血管年齢、血圧・血糖値測定、体組成検査などの検査が無料でできるとあって、12時から15時までの開催期間中は、多くの市民が訪れ行列ができるほど大盛況でした。

今年度は「中高生の進学支援ガイダンス」の事業展開として、血液塗抹標本と細胞診標本を準備し、チカホを通る中高生に顕微鏡を通して標本見てもらい、臨床検査技師という職業を知ってもらうための活動も実施しましたが、残念ながら多くの学生に見てもらうという目的は達せませんでした。しかしながら小さい子供からお年寄りまで幅広い世代にお声がけして標本を見てもらい、臨床検査技師という職業をしつもらうことができたのではないかと思います。中には、大学に通っているが臨床検査技師に興味があり、どうしたらなれるのかなどの質問があり、臨床検査技師になるための養成校についての説明などを行いました。今回得られた反省点をもとに、次年度に向けて実施内容も含めて改善していきたいと思います。

(北海道臨床衛生検査技師会 田中 謙次)



岩手県

全国 検査と健康展inやはばーく（岩手県矢巾町）が令和7年1月2日（日）に開催されました。当日は快晴に恵まれ、200名もの多くの方にご来場いただきました。



内容は、「臨床検査紹介パネル」、「AED体験コーナー」、「エコ一体験コーナー」、「覗いてみよう顕微鏡コーナー」、「健康モニタリング装置ASTRIM FIT体験」、「学生・保護者進路相談会コーナー」を設置しました。特に、「エコ一体験コーナー」ではフルーツゼリーを利用して中身のフルーツを色々な角度でプローブを当てることで見え方や形の違いを体験していただきました。体験した子供からは「みかんの形がわかつて面白かった」など好評でした。「覗いてみよう顕微鏡コーナー」ではHE標本や血液像を観察していただきました。小学3年生の子は「胃と肺がみたいです！」と自ら希望し、自分でピン

トを合わることができたときにはとてもうれしそうな笑顔をみせてくれました。「学生・保護者進路相談会コーナー」では現役の専門学校教員から、中・高校生に対して臨床検査技師の育成学校から、資格取得までの流れや学費などを説明しました。中学生からは「医療系に興味があった。学校によって学費が違うことがわかった」などの感想がありました。

参加スタッフは日々の業務が忙しい中にもかかわらず、臨床検査技師の普及と健康増進のために頑張っていただきました。また、快くスタッフを送り出してくれた勤務先の方々にもこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(岩手県臨床衛生検査技師会 川村 将史)

宮城県

2025年11月8日、ザ・モール仙台長町にて「検査と健康展」を開催し、105名の来場者を迎える大盛況で終えることができました。例年好評の小中学生を対象とした「検査体験」は今年も継続し、さらに若手技師による「進路相談」コーナーも設けました。実施内容は以下のとおりです。



【検査体験コーナー】

- ・携帯型超音波装置を使ってみよう
- ・顕微鏡で標本を覗いてみよう
- ・血管年齢測定
- ・肺年齢測定

【検査専門医による検査説明相談コーナー】

【臨床検査技師による進路相談コーナー】

仙台市・名取市・岩沼市の教育委員会協力のもと、小中学生の職業体験として顕微鏡・超音波検査体験も行い、臨床検査技師への関心を育む貴重な機会となりました。また、進路相談は新しい取り組みでしたが、若手技師による親身な説明を熱心に聞く高校生と親御さんの姿が見られました。

臨床検査技師の業務紹介と健康意識の啓発を目的とした血管年齢・肺年齢測定では、生活習慣病予防や医療技術への理解促進に寄与しました。東北大学病院の加藤浩貴先生による健康相談では、丁寧な解説と生活改善の助言が好評でした。20名の実務委員が協力して当日の運営にあたりましたが、来場者からのアンケートでも好意的な感想が寄せられ、地域と臨床検査技師をつなぐ有意義な催しとなりました。

(宮城県臨床検査技師会 桃澤 慶子)

秋田県

全国「検査と健康展」in能代市を令和7年11月1日（土）に能代市のイオンタウン能代催事場で開催しました。当日は雨模様でしたがショッピングセンターでの開催のため、多くの皆さんに来場していただきました。尿試験紙を使って飲料水の糖を調べたり、顕微鏡で細胞や組織の観察をしたり、血液型や輸血検査の説明などで、臨床検査技師の仕事を身近に感じていただきました。手洗い検証では感染症予防に関心を持っていただくことができました。中高生の来場は少なかったものの、臨床検査技師の仕事に興味を持ち養成校のパンフレットを手にしていた方もいらっしゃいました。

他にも子供たちが白衣を着ての記念撮影や、間違い探し、認知症検査や仕事紹介を行い、小さな子供から年配の方まで総来場者数127名と多くの方に臨床検査技師とその仕事を知っていただく良い機会となりました。

（秋田県臨床検査技師会 藤谷 富美子）



山形県

2025年11月8日
(土)、イオンモール
山形南1Fセンター

トにて「検査と健康展」を開催しました。今年度のテーマ「若い世代をターゲットに」に沿い、山形市役所からのプレスリリース(20箇所)や情報サイトへのチラシ掲載の他に、県内高等学校への案内送付など、若い世代に届くように多方面への情報発信を行いました。

当日は約300名が来場し、会場は終日活気に満っていました。体験ブース（顕微鏡、心電図、エコー、模擬尿検査、AED、寄生虫展示、白衣試着など）と検査ブース（血管年齢、簡易貧血、体脂肪、骨密度、物忘



れ診断など）を設け、各ブースには関連パネルも展示しました。検査技師のパンフレットや養成校の案内資料も多くの方に手に取っていただき、気づけば完配でした。

家族連れの参加が多く、顕微鏡をのぞいて「見えた！」と叫ぶ子供たち、白衣姿でポーズを決める未来的な検査技師たち？の姿に、私たち実行委員も思わず笑顔になりました。会場は終始温かい雰囲気に包まれ、来場者との交流を通じて、臨床検査技師の魅力をしっかりと届けることができました。

次年度も、世代を超えて“検査のおもしろさ”を広げられるよう、さらに工夫を重ねて取り組んでいきたいと思います。

（山形県臨床検査技師会 奥山 馨）

岡山県

令和7年11月8日（土）、
プランチ岡山北長瀬
「ハッシュタグ岡山」にて
『健康と臨床検査展』
を開催しました。



当日は179名の方々にご来場いただきました。最寄り駅から近い会場ではありましたが、未就学児が多く集まる施設ということもあり、参加者数は昨年よりやや少なめでした。

無料検査コーナーでは、骨密度や血管年齢の測定に多くの方が関心を示されました。

特に頸動脈エコー検査は珍しく、ご自身の血管の状態を画面で直接確認できることに驚かれる方が多くいらっしゃいました。

出張オープンキャンパスでは、各大学の担当者から直接話を聞ける貴重な機会となりました。

さらに、就職1・2年目の技師による「臨床検査技師リアル相談コーナー」を設けたことで、進路選択に向けてより具体的な情報を得ることができました。

（岡山県臨床検査技師会 中川 尚久）

（編集後記） 新年を迎え、新たな決意を胸にされた方も多くいらっしゃることでしょう。さて、今年の浄土真宗法語カレンダーの表紙には「これからがこれまでを決める」という言葉が掲げられています。過去の苦労や経験も、からの歩み次第で光り輝く宝物へと変えていける・・・、そんな力強い励ましを感じます。本年が皆様にとって、過去をも輝かせるような実り多き「これから」となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

（宮川）